

10月21日～26日、本校生徒（SGグループLABO3）の10名がカンボジアで研修を行います。滞在中は、企業やJICAを訪問、実際に活動している方へのインタビューなどを通して「海外で活躍する女性リーダー」の研究を深めます。さらに、現地の高校生との交流を通してカンボジアや東南アジアの歴史と文化について学習し、日本人として自らの立場について考える機会にしたいと思います。

10月21日（日）カンボジア・プノンペンへ



[プノンペン市内]

■ 成田空港からプノンペンへ

10月21日、成田空港を出発し定刻より40分ほど早くプノンペン国際空港に到着しました。LABO3アドバイザーとして研修にも同行し、指導をしてくださっている昭和女子大学准教授、米倉雪子先生のガイドのもと1時間ほど王宮の回りや川辺を散策しました。カンボジアでは一歩入るとスラムのような場所の臭い、そして湿度の高さによる暑さに閉口しましたが、生徒たちは元気に研修をスタートしました。

■ カンボジア内戦やポル・ポト政権下の歴史遺産を見学

■ カンボジアの歴史を学ぶ

到着翌日は大量虐殺が行われた刑場跡である、チュンエク大量虐殺センターとトゥール・スレン虐殺犯罪博物館を見学し、カンボジア内戦やポル・ポト時代の歴史について学びました。ある推計ではポル・ポト政権下の3年9ヶ月で100万～170万という犠牲者が出たとも言われています。

想像を絶する残酷さを目の当たりにし、1年生は言葉も少なくなり顔からは笑顔が消えていきました。2年生は昨年度回りきれなかった箇所を中心に見学していました。

目をそむけたくくなるような悲惨な歴史ですが、カンボジアを知るためには避けて通れない史跡です。



[チュンエク大量虐殺センターにて]

■ カンボジアで活動する日本人を訪ねて

■ JICA カンボジア事務所・倉田ペッパーへの訪問

JICA(独立行政法人国際協力機構)カンボジア事務所を訪問しました。昨年度の担当の方と再会しお話を伺うことで、カンボジアの成長の様子を数値の変化で知ることができました。支援の状況としては、日本から寄付されたバス80台が今月末から走り始めていました。さらに信号機の寄付、橋の建設などを目にすることで日本の世界での役割を改めて考えることもできました。

倉田ペッパーは、かつて世界一の品質を誇りつつも政情不安定により衰退した胡椒産業の再興を目指している企業です。カンボジア伝統の有機栽培にこだわり、安心安全の最高級品を提供しています。倉田さんが不在のため従業員の方に英語で質疑応答を行い胡椒の選別体験もさせていただきました。

1年生は感じた疑問を次々に投げ掛け積極的な姿勢でした。2年生は質問内容が昨年の勉強の上にあるため、より深いものになっており学習の効果がでていました。



[JICAにて]



[倉田ペッパーにて]



■ ■ ■ 現地の Teuk Laak 高校生たちとの交流・日本人編集者訪問

■ プノンペン市内の Teuk Laak 高校での交流

Teuk Laak 高校は日本の ODA で建てられた学校で、机の前には From Japan の札がつけられていました。昨日 JICA カンボジア事務所で学んだ国際支援の一端を目にすることができました。生徒たちは英語で会話をし、伝わりにくい時はジェスチャーをしたり書いたりしながらコミュニケーションを図り、それぞれの学校の様子や自分たちの将来について語り合い、一気に仲良くなっていきました。今回の交流を通して、文化の違いや異なる生活を学び、自分のできる社会貢献や、多文化共生社会を目指すために何が必要かを考える機会となりました。

■ 雑誌編集者：木村文さんと面談

朝日新聞の報道部門で以前勤務され、現在は『プノン』という雑誌を編集している木村文さんのお話をうかがいました。今夏に行われたカンボジア総選挙の実情についてのお話をしてくださり、選挙の無効票の意味や、日本のカンボジア選挙との関わり方が正しかったのか否かについてのお考えも伺いました。生徒は全員が何度も質問しており、勉強してきた成果が出ていました。木村さんからは、よく調べて物事を深く考えているとのことのお言葉もいただきました。



[Teuk Laak 高校]



[木村文氏と]

■ ■ ■ 研修の地をシュムリアップへ

■ Base camp 経営者：澤村純子さんインタビュー

シュムリアップでカフェ経営をしている澤村純子さんにお話を伺いました。どのような経緯で澤村さんが異国の地であるカンボジアに来たのか、カフェの経営や将来性について質問をしました。気になったことはまず行動することの大切さや、進路決定の上での心構えなどを伺いました。

■ タブローーム遺跡、アンコールトム、アンコールワット見学

カンボジアを代表する世界遺産、タブローーム遺跡、アンコールトム、アンコールワットを見学しました。ジャングルの中にひそむ巨大な宮殿は幻想的で、叙事詩や歴史、物語を表現した美しい壁の彫刻などを、限られた時間ではありましたが、生徒たちは熱心にそして元気に見学していました。



[アンコールワットで記念撮影]

■ Svay Chek Organic Farm 代表：小島幸子さん訪問

小島幸子さんは『アンコールクッキー会社』を創業し、カンボジア土産の代名詞となるほどに成長させた方です。その会社を人に渡し、地方での雇用拡充にむけてはじめて新しい事業が『Svay Chek Organic Farm』です。農場は広大なので小島さんがいるエリアまで自転車に乗って移動し、インタビューをしました。アンコールクッキー創設から今の農場に至るまでの経緯と今後の展望についてお話しいただきました。質疑応答では活発に質問をして充実した時間となりました。その後、トラクターに乗って敷地を案内していただき、心地よい風を感じることができました。アンコールクッキーを人に渡したことに未練はなく、地方での雇用にむけて大変なことは何もない！仕事は楽しい！とおっしゃる、パワフルな小島さんから刺激とパワーをいただきました。バイタリティーあふれる女性リーダーのお話は「海外で活躍する女性リーダー」の研究にとって大変有意義なものとなりました。

■ クル・クメール 代表：篠田ちひろさん訪問

カンボジアのハーブを活かした石鹸やクリーム等の製造販売、SPA事業の『クル・クメール』代表、篠田ちひろさんにお会いしました。私たちの学校での特別講演や昨年の研修の際にお会いしているので、今回は質疑応答を中心にお時間をいただきました。お話の中で、「将来や過去のことはばかり考えて時間を過ごすのではなく、今のことを考える時間を増やしていくと幸せになれるということカンボジア人から教えてもらった」という言葉が印象に残りました。現在は、ラオスに進出して障害者の人が経営できるカフェの支援を始めるなど、行動力のある篠田さんから大いに学ぶことができました。

